



▲口当たりが良くなるようにていねいに削ります。

地域のお仕事を再発見

身近な地域の仕事を紹介する「やすぎであらエッサ広瀬・伯太産業フェア 2019」が10月27日、安来節芸館で開催されました。会場には、同地域の22事業所が製造する飲食物や、暮らしの製品などが勢ぞろい。また、桜餅づくりや木製行灯づくりなど、13種類の体験コーナーも設けられ、家族連れなどで賑わっていました。

お母さんとマイ箸作りに参加した濱崎美空さん(小学3年生)は「木が動くので支えながらカンナを引く力の入れ具合が難しかった。ご飯の時に使ってみたい」と話してくれました。



まちゼミで地域に元気を

お店の店主が講師となってお客さんに専門的な知識や情報などを伝えるまちゼミは全国に広がっています。10月25日には、各地の取組方法や意見交換を通じて地域の解決策を見出そうと「第1回島根県まちゼミフォーラム in 安来」が安来商工会議所で行われました。

同フォーラムでは、全国で最初にまちゼミを始めた岡崎市の松井洋一郎さんによる講演があり、まちゼミから新商品が生まれたことやまちが活気づいた



まちの話題や出来事を紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック (FB)」で公開しています。



粘土で作った作品を見せてくれた女の子。よく見るとカボチャとミニオン(映画キャラクター)です。二人でハロウィンの準備をしたのかな(10月29日)

今月の一枚



◀ 講演をする松井さん。県内だけでなく、岡山県や東京都からの参加もありました。

ことなどの各地の事例を紹介。松井さんは「商人はお客さんの声を拾うことが大切であり、また、それを生かして商売を続けていくことがまちへの一番の貢献である」と話していました。

また、パネルディスカッションでは、松井さんと(株)商業界の笹井清範さん、中小企業診断士の岩崎美紀さんが討論。これまでの人口増加時代のままの商売を現代のスタイルに合わせたものに変えていく必要があることを強調していました。





◀薬包紙に包んだラムネは薬袋に入れて参加者に渡されました。

身近な病院を目指します

地域の皆さんとのつながりを深めようと10月27日、市立病院まつり2019を開催しました。会場となった同病院では、院内探検ツアーをはじめ、ミニ健康チェックや健康づくり体操の指導などが行われ、多くの人が訪れていました。

医師や看護師など病院で働く職業を紹介するコーナーでは、仕事の模擬体験を用意。薬を模したラムネ粉を薬包紙に包む薬剤師に挑戦した門脇東洋さん(小学5年生)は「見たことがない複雑な折り方だったので包むのが難しかった」と話していました。



◀足踏ふいごを使い、文字どおり代わり番子で送風する参加者。

古代たたらを復元・操業

古来の「たたら」の技術で鉄づくりを体験しようと、10月8～11日まで和鋼博物館で「古代たたらを復元操業」が行われました。指導するのは国内で唯一たたらを操業している日刀保たたら(にっとうほ)の木原明村下。同たたらと同じ粘土で炉を築き、最終日の11日早朝に火入れ、その後、砂鉄と木炭を交互に入れ、夕方には炉を壊して鉤を取り出しました。

砂鉄120kg、木炭209kgからできた鉤は、鋼と銑を合せて36.9kg。操業に協力した同博物館友の会会員や市内鉄鋼事業所の新入社員ら約150人は、千数百年も受け継がれてきた技術によって生み出された「和鉄」に見入っていました。

光の空間で秋の古刹を楽しむ

安来の観光名所の一つである清水寺の魅力を広く知ってもらおうと「清水寺灯参道」を10月26日・27日に開催しました。

当日は参道に置かれたあんどんの光を楽しみながら多くの家族連れなどが散策をする様子がみられました。また、境内に進むと根本堂や千年杉がライトアップされ、昼間とは違った雰囲気演出。来場者は幻想的な空間の中、お茶を飲んだり写真を撮ったりして、ゆったりとした癒やしの時間を楽しんでいました。



◀境内ではろうそくで「清水寺」の文字が浮かび上がりました。

走りのスペシャリストから伝授

なかうみマラソン全国大会のゲストランナー・加納由理さんの陸上教室を11月2日、安来運動公園で開催しました。加納さんは2009年ベルリン世界選手権女子マラソンの日本代表で、走りのスペシャリスト。現在は生涯ランナーとして各地のランニングスクール等での指導に関わっています。教室には園児から大人まで49人が参加しました。

現役時代に行っていたウォーミングアップなどを紹介しながら加納さんは「長距離を走っていると前かがみになりがちです。姿勢を意識して走ってください」となどと、参加者にアドバイスしていました。



▲参加者と一緒にランニングする加納由理さん(手前)。



◀どじょう掬い新人コンクールで踊りを披露する参加者。

文化祭で安来節のコンクール

市総合文化祭の一環で11月2日、安来節演芸館で「みんなで唄う安来節」を開催しました。安来節をはじめ山陰の民謡や詩吟なども披露され、会場は終日多くの人で賑わっていました。

午後には、安来節・どじょう掬い新人コンクールがあり、大きな声援の中、参加者は一生懸命に唄や踊りを披露していました。どじょう掬いの部に出場した揖野光悠さん（小学6年生）は「練習どおりに歩きやザルで掬うところが上手くできました。自分では90点ぐらいの出来栄でした」と話していました。



▲安来商工会議所では健康診断の徹底やワークライフバランスなどに取り組んでいます。

健康経営を広めていきます

安来商工会議所（役職員14人）が協会けんぽ島根支部からヘルス・マネジメント事業所の認定を受けました。同制度は、働き盛り世代の健康づくりを進める目的で、従業員の健康管理に積極的に取り組んでいる事業所を認証するものです。

板持真澄事務局長は「生産性の向上等につながる健康経営を進めていく上でまず、商工会議所が取得しました。これから会員の事業所にも取り組みを広げていきたい」と話していました。

認定を受けると金融機関からの借上げ金の金利優遇を受けられるなどの優遇措置があります。市内では4事業所が認定を受けています。

たうんとぴっくす



市民の声援の中を疾走

15回目となるなかうみマラソン全国大会を11月3日に開催。4,934人が中海沿いのコースを疾走したりウォーキングをしたりしました。この日は気温が20度を下回るランナーにとってはベストなコンディション。出場者は波静かな湖面や色づき始めた街路樹を眺めながら、秋の安来路を楽しみました。

一方、コース沿いでは、付近に住む市民の皆さんや選手の家族たちが沿道に出て選手に声援。駆け抜ける選手たちも「ありがとう」などと手を挙げてお礼のサインを送り返していました。

ゴール後の選手たちは会場に用意された地元のグルメや特産品に舌鼓。スポーツと共に安来の味覚を楽しんでいました。

なかうみマラソン全国大会はスポーツ振興くじの助成を受けて行っています。



▲号砲とともにいっせいにスタートする選手たち。同マラソン大会は7つの部があり、幅広い年齢層が参加できるのが特徴です。



▲沿道からの声援に手を振って応える選手（汐手が丘付近）。その他、応援パフォーマンスとして市内の太鼓団体などが選手たちにエールを送りました。